

議員提出第 11 号議案

高齢者の安全運転支援と地域における移動手段の確保を求める意見書

上記の議案を別紙のとおり、会議規則第 13 条第 1 項の規定により提出する。

令和元年 10 月 21 日

提出者

足立区議会議員	吉岡	茂
同	岡安	たかし
同	かねだ	正
同	ぬかが	和子
同	鈴木	あきら
同	渡辺	ひであき
同	小泉	ひろし
同	たがた	直昭
同	はたの	昭彦
同	ただ	太郎
同	吉田	こうじ
同	土屋	のりこ

足立区議会議長 鹿浜 昭 様

(提案理由)

政府に対し、高齢運転者の安全運転支援と地域における移動手段の確保を進める必要があるため、本案を提出する。

高齢者の安全運転支援と地域における移動手段の確保を求める意見書

豊島区池袋で今年4月に87歳の高齢者が運転する車が暴走し、母子2人が亡くなった事故以降も高齢運転者による事故が続いている。

近年、交通事故の発生件数は減少傾向にあるが、75歳以上の高齢運転者による死亡事故の割合は高まっており、ブレーキとアクセルの踏み間違いなど単純ミスによる事故も目立つ。

警察庁は、昨年末時点で約563万人いる75歳以上の運転免許保有者が、2022年には100万人増えて663万人に膨らむと推計している。

こうした状況を踏まえ、国は2017年施行の改正道路交通法で、75歳以上の免許保有者は一定の違反行為をした時や免許更新時に認知機能検査を受けることを義務付けたが、いまや高齢運転者の安全対策及び安全運転支援の取り組みは待ったなしの課題である。

また、交通空白地域を中心に、未だ「生活の足」として車が欠かせない高齢者も多い中、自主的に免許を返納した場合などの地域における移動手段の確保も取り組むべき重要な課題である。

よって、足立区議会は政府に対し、地方自治体や民間事業者とも連携しながら、総合的な事故防止策としての高齢運転者の安全運転支援と地域における移動手段の確保を進めるため、下記事項について早急に取り組むことを強く求めるものである。

記

- 1 自動ブレーキやペダル踏み間違い時の急加速を防ぐ機能など、ドライバーの安全運転を支援する装置を搭載した「安全運転サポート車」（サポカーS）や後付けの「ペダル踏み間違い時加速抑制装置」の普及を一層加速させるとともに、高齢者を対象とした購入支援策を検討すること。
- 2 高齢運転者による交通事故を減らすため、「安全運転サポート車」

(サポカー S) に限定した運転免許制度を創設すること。

3 高齢者が日々の買い物や通院などに困らないよう、コミュニティバスやデマンド型乗合タクシーの導入など「地域公共交通ネットワーク」のさらなる充実を図ること。また、運転免許証を自主返納した高齢者に、地方自治体などが行うタクシーや公共交通機関の割引制度などを支援すること。

以上、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出する。

令和 年 月 日

議 長 名

衆議院議長

参議院議長

内閣総理大臣

総務大臣

あ て

経済産業大臣

国土交通大臣

国家公安委員会委員長